

株式会社会津ラボ、福島トヨペット株式会社

自動運転車両が利用可能な情報基盤の構築を行い、情報の相互利用性を高めることで将来的な自動運転に係るコスト低減を目指します。車両を自動運転するにあたって車両に搭載された様々なセンサが複合的にデータを収集し、リアルタイムに分析を行っています。現状はほぼ全てのデータが車内に設置されたコンピューターにより分析されています。本プロジェクトではセンサ等の取得データをクラウドに集約し、活用するシステムを開発しています。

実施期間：2017年度～2019年度 実用化計画開発実施場所：浪江町

自動運転に係る情報基盤の構築及び まちなか巡回車両の実用化に向けた実証試験

現状・背景

過疎地域や公共交通機関が十分に機能していない地域において、新たな交通手段の確保が急がれています。自動運転車の導入は解決手段の一つですが、現在のシステムは初期導入と運用コストが高すぎて現実的ではありません。本プロジェクトでは独自の共通情報基盤を構築することで自動運転に係るコスト低減を目指します。

研究（実用化）開発のポイント・先進性

本実用化事業では、自動運転向けのオープンな情報基盤の構築と当該基盤を用いた自動運転車両の運航管理システムを構築します。オープンな情報基盤は、各車両から相互に情報の提供を受け、当該データを利活用することで自動運転に係る初期費用、運用費用の低減が実現されます。今年度は自動運転車両の構築を行い、福島県初となる公道における自動運転実証を開始しました。福島トヨペットは主に自動運転車両の整備・運用保守点検を、会津ラボは主に情報基盤の開発、構築を実施しました。また両社で公道での自動運転走行実証を行いました。

研究（実用化）開発の目標

平成 31 年度：情報基盤の運用開始、公共交通サービスとしての運航開始
平成 32 年度：コスト低減及び自動運転パッケージの展開（情報基盤を含む）
平成 33 年度：他地域への展開による事業拡大



自動運転車両による現地試験



平成 30 年 12 月 3 日の公道実証開始セレモニー

浜通り地域への 経済波及効果（見込み）

今年度の事業から、想定地域である福島県浪江町において公道での自動走行実証を開始しました。本成果の実用化により、過疎地域や公共交通が十分でない地域において、巡回交通のサービスが提供でき、当該地域においての住民の移動促進、経済的貢献も期待されると考えています。

これまでに 得られた成果

- ①自動運転向け情報基盤
ブロックチェーンを活用した信頼性ある情報基盤の構築を行い、各種データの登録、参照ができるようになりました。
- ②自動運転車両の構築
ミニバン型の試験車両に全方位レーザー、カメラ、車両制御ソフトを搭載した自動運転車両の構築を行いました。
- ③公道での自動運転走行
福島県初となるレベル3（条件付運転自動化）での自動運転走行を浪江町役場・浪江駅間の経路で行いました。

開発者からの浜通り復興に 向けたメッセージ



株式会社会津ラボ
代表取締役 松永州央

当社では自動運転に係るコスト低減を実現し、より多くの地域で自動運転システム及び自動運転車両を活用した公共交通、物流など各種サービスの実現を目指します。これらシステムの社会実装は様々な業種、業態で横連携し進めていくことになります。地域交通の利便性向上、経済活性化に向けた活動として更なる連携、協力をお願いいたします。



福島トヨペット株式会社
代表取締役社長 佐藤修朗

当社は、株式会社会津ラボさんの自動運転システムおよび自動運転車両を活用した公共交通、物流の実現による浪江町を始めとする被災地域の復興への取組みに共感し、車両の提供とメンテナンスで事業参加致しております。復興に少しでもお役に立てる事を願っております。